

# 新型コロナウイルスワクチン 接種関連情報

(7月19日現在)

TOPICS\_01

特にお知らせしたいこと

本市では、65歳以上の高齢者、基礎疾患がある人の順に接種を進めています。今回、8月末までの集団接種の予約受付を、基礎疾患がない60歳から64歳の人までを対象に行います。なお、基礎疾患がない59歳以下の人の集団接種の予約受付は9月号広報でお知らせします。



## 基礎疾患がない60歳～64歳の「集団接種」予約受付を開始

### 予約受付対象者

#### 60歳～64歳

(昭和32年4月2日生まれ～昭和37年4月1日  
生まれの基礎疾患のない人)

### 予約開始日

#### 8月3日(火) 10時開始

※予約開始前にメンテナンスを行います。メンテナ  
ンス中は、システムへのログインができません。

### 予約方法

インターネット予約のみ  
(三田市新型コロナウイルスワクチ  
ン接種予約システム)



▲専用予約  
サイト

### 接種可能期間

#### 8月8日(日)～29日(日) / 1,300人分

※土曜と一部日程は除く

■ 今回予約できなかった人は、9月以降の  
接種日で予約受付を行う予定です。

### 接種会場

#### 三田市総合福祉保健センター 駐車場 特設会場 (川除675)

※ 65歳以上の高齢者と16歳～64歳(昭和  
32年4月2日生まれ～平成18年4月1  
日生まれ)の基礎疾患がある人の予約受付  
は引き続き行っています。



「個別接種」については、予約受付の開始日など実施スケジュールは各医療機関で異なります。  
詳細は、直接、希望する医療機関へお問い合わせください。

### Q 住民票とは異なる市区町村でワクチンを受ける場合の手続き方法は？

#### A 接種場所の市区町村へ申請が必要です。

	市外に住民票を有する人で三田市で接種を希望する人	三田市に住民票を有する人で市外で接種を希望する人
申請先	三田市健康増進課 (総合福祉保健センター)	接種を希望する市区町村
対象者	■ 単身赴任者 ■ 遠隔地へ下宿している学生 ■ 出産のために里帰りしている妊婦 ■ DV、ストーカー行為、児童虐待およびこれらに準ずる行為の被害者 など	
所要時間	申請書を受理してから1週間程度	各市区町村へお尋ねください

### Q 接種証明書(ワクチンパスポート)は発行してもらえますか？

#### A 海外渡航を目的とした場合に限り、接種証明書の発行申請を受け付けています。

申請方法の詳細は、市ホームページに掲載しています。なお、国内使用目的の場合は申請できません。



### Q 必ず接種しないとイケませんか？

#### A 本人の同意に基づく任意接種です。

体質等の事情によりワクチン接種を受けられない人もいます。職場や周りの人などに接種を強制することのないようにお願いします。

問い合わせ＝三田市新型コロナウイルスワクチン専用コールセンター (0570-010-858)



■連載 三田市民病院の「今」

# 三田・北神地域 急性期医療を守る 検討委員会

6月4日、「北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会」がスタートしました。委員会では、地域の急性期医療を将来にわたり堅持していくため、有識者や地元地域団体代表などがさまざまな立場から意見交換し、その方策を検討していきます。今号では、委員会発足の経緯と第一回の内容をお伝えします。「今後隔月連載」

療の提供ができなくなる。そこで、質の高い医療を効率的、持続的に提供できるような法を改正し、次のことを制度化した。▽急性期▽回復期▽慢性期——など(下表参照)、各医療機関が担う役割を明確にし、地域内で連携することで医療提供体制を守る「地域医療構想」を都道府県ごとに定めることとした。

日本の医療が抱える2025年問題「病院完結型」の医療から「地域完結型」の医療へ——平成27年、国は、今後到来する超高齢社会における医療への対応に踏み切った。団塊の世代が75歳以上になる2025年以降、医療需要は一層増すが、人口減少によって医師などの確保が難しくなることが予想される。このことから、医療機関単位で医療提供を考える、これまでのような「病院完結型」では、患者に対する医師数が不足し、適正な医

療構想を踏まえ、公立病院において策定が義務付けられた「改革プラン」を平成28年度に策定。主に救急医療などを担う「急性期病院(下記参照)」として在り続けることを明記した。命に関わる救急時、急性期病院が地域にあることは、「暮らしの安全・安心を守る」と同義であるからだ。さらに、プランでは「再編・ネットワーキング」についても定める。これは、地域の各医療機関が持つ役割の重複を避け、医療資源を適正配分し、地域全体に必要な医療を提供できるようにすることが目的だ。

[ Key Word ]

「急性期」とは——三田市民病院の役割

病院は、病状に応じたさまざまな役割(機能)があります。急性期病院は、急な病気や、対応に緊急性を要する病状などに応じて、必要な検査や手術を24時間体制で行える病院です。現在、三田市民病院は地域の急性期病院の拠点として役割を担っています。

病院の役割	医療の提供内容[例]
高度急性期	集中治療
急性期	救急医療
回復期	リハビリ
慢性期	長期療養

【2】三田市、済生会病院、神戸市で急性期医療の「連携」の方法を検討  
そこで、地域医療を共に考えることになったのが済生会兵庫県病院(以下「済生会病院」)だ。済生会病院は地理的条件や交通事情などにより日常生活で往来の多い隣接地域にあり、同じ急性期病院である。令和元年度、三田市、済生会病院、神戸市で、地域医療の「連携」の在り方を検討する場(北神・三田急性期医療連携会議)を持ち、協議を行った。

## 地域の急性期医療を守る「検討委員会」発足

持続可能な急性期医療の提供を目指して

### 【3】再編・統合も視野に入れた「検討委員会」を設置

昨年12月に行われた連携会議をきっかけに、「北神・三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会」(以下「委員会」)が発足。済生会病院から「単独では、将来的に地域の基幹病院として急性期医療を維持・継続していくことは困難。急性期医療の集約化も視野に神戸市と検討し、難しい場合は急性期からの撤退も考える」との報告を受けたことによる。

三田市民病院と済生会病院は、急性期病院として双方の地域の住民から利用されている(下記病院の説明参照)ことや、これまでの経緯、各々が強みの医療分野を持っている

ことなどから、今後を見据えて最も合理的に検討していくことができる医療機関は互いに両病院のみと判断。両地域の将来的な急性期医療の確保について、再編・統合も視野に入れ検討する委員会を三田市と神戸市が共同で立ち上げた。

### 多様な立場から参加 地元地域団体代表も

委員会の目的は、両地域の急性期医療を将来にわたって維持・充実させるための方策を検討するに当たり「専門的な見地、市民の立場から幅広く意見を求める」こと。両病院長をはじめ、三田市・神戸市北区の医師会、両市の地元地域団体代表など多様な立場から参加する。6月の第一回は両病院の現状と課題をテーマに意見が出された。

### 三田市民病院

平成7年5月三田市けやき台に開院(移転)。病床数300。三田市・丹波篠山市・神戸市北区の患者が主に受診(受診患者全体の約8割)。心臓のカテーテル治療などに強みを持つ。「断らない救急」を掲げ、24時間救急医療(入院を必要とする重症救急)を徹底。救急車の受け入れ率は90%以上ののぼる。

### 済生会兵庫県病院

平成3年12月神戸市北区藤原台に開院(移転)。病床数268。神戸市北区・西宮市・三田市の患者が主に受診(受診患者全体の約8割)。産婦人科と小児科の周産期医療に強みを持つ。ハイリスク妊婦・新生児を24時間体制で受け入れる地域周産期母子医療センターに指定されている。

# 三田 × 北神



### 今後の委員会スケジュール(予定)

第2回 3年8月	北神・三田地域の現状と課題 将来の医療需要推計
第3回 3年10月	必要な医療機能 急性期医療確保の方策
第4回 3年12月	急性期医療確保の方策 報告書(案)
第5回 4年3月	報告書(案)

### 委員名簿

【学識経験者】

甲南大学経済学部教授  
神戸大学医学部附属病院長  
同志社大学経済学部教授[座長]

【病院関係者】

済生会兵庫県病院長  
三田市民病院長  
兵庫県民間病院協会会長  
兵庫県民間病院協会理事

【医療関係者】 \*50音順

神戸市北区医師会長  
三田市医師会長

【地元地域団体代表】

神戸市北区連合自治協議会副会長  
三田市区・自治会連合会長

【広域行政】

兵庫県健康福祉部健康局長



# 「医師確保」が最大の課題

第1回検討委員会では、両病院の現状からみて主に3つの課題が提示されました。委員の意見を課題ごとに紹介します。\*意見は会議録から一部抜粋・要約

## 課題1 医師の確保

■今後5年10年先「Q1」のことを考えると、今の急性期医療を維持・発展させるためには、医師の確保が最も重要。特に救急を含む急性期医療には若い医師の確保「Q6」が重要。

■診療の中核を占めている内科の医師の確保が厳しい。勤務したいといわれる病院にしたいが、より良い医療を行うための医師の絶対数が足りないこと、医師の高齢化が課題。

■神戸大学に医師の派遣をお願い「Q2」するが、400床以上の病院でない医師の派遣は難しい「Q4」と言われる。

■北神・三田地域で、さらに専門性のある診療が必要になってくる。大学は医師を送り出す立場でもあるが、大病院自身も医師の確保に困っている状況であり、専門性を持った医師を、各々の病院に派遣することは難しい。三田市民病院、済生会兵庫県病院それぞれではなく、集約した形で専門性の高い医師を派遣することは、良い医療を提供するうえで意味のあること「Q5」だと考える。

■医師の働き方改革「Q6」で、3年後には、厚生労働省が提示している医療提供体制への対応を各病院が求められている。一人の医師が働く時間も制限がかかってくる。両病院とも今のままでは、救急も含めて、医師の働き方改革に十分に対応することは困難であると考えられる。このことから、医療人材の集約化は不可避であり、喫緊の課題であると捉えることが必要。

## 課題2 急性期医療の機能維持

■三田市民の意見として「家に近い病院で医療を受けたい」、「24時間体制の救急病院が近くにあるほしい」という意見が非常に多い。病

院の機能を上げれば、救急医療を含めた医療の提供が、三田市・神戸市北区で完結できる。それを担える「マグネットホスピタル「Q7」が必要。また、若い医師も行きたいと思う病院になることが必要。

■北神・三田地域では、夜間の小児1次救急は神戸市中央区にある神戸こども初期急病センターまで行っていたがなければならず、小児急性期医療は貧弱な状況となっている。将来はますます悪くなるという事を想定して考えないといけない。

■三田市民には、24時間対応できる救急病院が必要。24時間体制で救急を診ようとするとなりの数の診療科と医師が必要。維持するのは難しいので、人材について交流、集約しながら確保していくことが必要。

## 課題3 施設・設備の老朽化への対応

■患者の需要と供給を考え、対応していく必要がある。築年数30年となると、老朽化が進んでいる。「Q8」抜本的な改築等が両病院とも必要。

■高度な医療機器があるのであれば、高額な更新費や機器を扱う専門医が必要となる。老朽化による費用の拡大、技術の更新を考えると、統合等を含め必要な検討をすべき。



▲会議録はこちらから

もっと詳しく知りたい

職員が出向いてご説明します【出前講座】



講座内容=三田市が目指す医療提供体制のあり方と市民病院が抱えている課題や課題解決に向けた取り組みについて説明します。

期間=7月~翌年2月

対象=市内在住・在勤・在学の10人以上参加できる団体やグループ

申し込み=市民病院改革プラン推進課(559-5086 FAX 559-5111)



皆さんの声をお聞かせください

広報誌を読んで【読者アンケート】



「連載／三田市民病院の今」を読んだ感想をお寄せください。今後、連載を掲載するにあたり参考とさせていただきます。

\*アンケートへの回答はいたしませんので予めご了承ください。



今回の連載は10月号を予定しています

## Q&A

検討委員会の内容がより具体的に分かるよう、用語の説明や背景についてQ&Aで解説します。

Q1 医療の5年10年先って、どんなことが起こるの?

2025年には団塊の世代が75歳以上となり、急性期医療(救急医療など)を必要とする患者数の増加が見込まれています。

Q2 どうして神戸大学に医師の派遣をお願いしているの?

病院が単独で医師を確保することは非常に困難なため、安定して医師を確保できるよう、大学から医師の派遣を受けることが一般的です。三田市民病院は開院時から主に神戸大学から派遣を受けています。(現医師69人中59人が派遣)

Q3 どうして若い医師の確保が課題になっているの?

医療技術水準の向上等を目指し、30年度から始まった「新専門医制度」が要因のひとつです。この制度では、専門医になるために、専門性の高い技術のある指導医のもとで研修プログラムを受け、手術などの経験を多く積むことが求められています。研修先の病院は医師本人が選択可能であることから、多くの診療経験を積むことができる400床[\*]以上の大規模病院に医師が集中(集約化)する傾向となっており、中小病院ではさらなる医師不足が懸念されています。

\*「床」…入院用のベッド

Q4 400床以上の病院でない医師の派遣は難しいってどういう意味?

一般に、大規模な病院は専門性が高い医療を提供している傾向があります。その大規模の目安となるのが400床です。豊富な診療経験を多く積めることが医師には重要とされています。

Q5 なぜ専門性の高い医師の集約で良い医療が提供できるの?

集約により、病院の機能を高めることができ、重篤な病状の場合に地域を越えなくても治療が行える「地域完結型」の急性期医療を提供することが可能となります。

Q6 医師の働き方改革で、どんな影響があるの?

これまでの日本の医療は医師の長時間労働により支えられており、今後、医療ニーズや医療の高度化により医師の負担はさらに増加することが予想されます。そこで、医療の質・安全を確保し、持続可能な医療提供体制を維持していくため、「働き方改革」により、残業や連続勤務時間の上限を定めるなど勤務が制限されることとなっています。このことから、医師をさらに確保しなければ、現在の診療体制を維持できなくなることが予想されます。



Q7 マグネットホスピタルってなに?

患者にも医療従事者にも魅力ある病院。患者にとっては医療機能が充実し安心の医療が受けられ、医療従事者にとっては人材育成能力が高く、やりがいを持って働き続けられる病院を意味します。

Q8 両病院の老朽化の状況をおしえて

両病院とも24時間365日稼働しているため、一般的な建物と比較して老朽化が早い傾向にあります。済生会病院は築29年、市民病院は築26年経過しており、必要最小限の改修を行っていますが、大規模な改修や建て替えが必要な時期となっています。